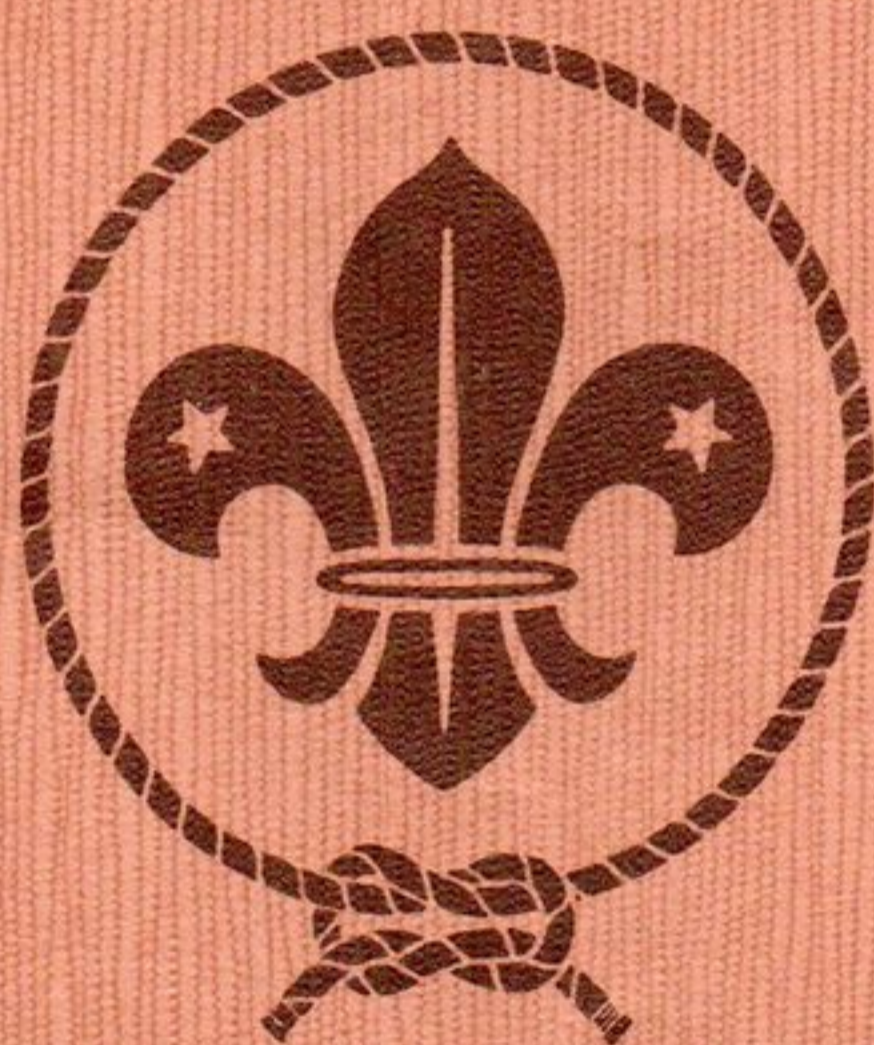


杉原 正さんの受章を祝う会

祝 藍綬褒章受章



2002年6月29日
東京全日空ホテル



音楽演奏

～成城大学レストロアルモニコ管弦楽団～

式次第

司会・進行 小町 國市
アシスタント 小林孝之助

- ・開 会
- ・入 場 杉原 正ご夫妻
- ・発起人代表挨拶 清水 孝郎
- ・来賓挨拶
 - 財団法人ボーイスカウト日本連盟理事長 佐波 正一様
 - 社団法人中央青少年団体連絡協議会会長 松本 零士様
 - 社団法人青少年育成国民会議会長 西原 春夫様
- ・お礼のことば 杉原 正
- ・乾 杯
 - 独立行政法人
 - 国立オリンピック記念青少年総合センター理事長 高 為重様
- ・懇 談
 - *祝電披露
 - *参会者スピーチ
 - *スカウトソング 指導：村上 智真
- ・記念品贈呈
 - *記念品
 - *花 束
 - *団 歌 指揮：渡辺 澄
 - *ごあいさつ 霊南坂スカウトクラブ会長 小崎 忠雄
- ・祝 声 ~「いやさか」三唱~
- ・お 開 き

杉原 正さんプロフィール

- 1936年3月 麻布区谷町（現在の港区六本木1丁目）に出生
1942年4月 麻布区立麻布小学校に入学
青山学院中等部、高等部を経て青山学院大学卒業
1959年4月 学校法人国際基督教大学、就職相談室主任、学生課長、
総務課長、大学及び法人事務局部長を歴任
1996年3月 定年退職

スカウト・リーダー歴

- 団 ・ 1948年12月、日本ボーイスカウト東京第4隊（現在の港第1団）にスカウトとして入隊。シニアスカウトを経てボーイ隊隊長、カブスカウト隊長、シニアスカウト隊長を経て、現在副団委員長。
- 地区 ・ 1963年、東京連盟山手地区副コミッショナー、第一地区副コミッショナーを歴任。
- 東京連盟 ・ 1967年、県副コミッショナー、初代トレーニングチームフィールドディレクター、指導者養成委員長、カブ年齢未満対策委員長などを歴任。理事を経て現在参与。
- 日本連盟 ・ 1963年、日本ギルウェル実修所カブスカウト課程第4期所員。以後、ウッドバジ研修所及びウッドバジ実修所、団委員長特修所、コミッショナー特修所、副リーダートレーナーコース、リーダートレーナーコース、アジア太平洋地域国際トレーニング・ザ・チーム・コース所長を歴任。
・ 1964年、日本連盟指導者養成委員、組織拡張委員、進歩委員など各種委員会委員及び委員長を歴任。トレーニングチーム副ディレクターを経てディレクターを歴任。（1995年退任）
・ 1977年、中央審議会議員及び常任中央審議会議員、カブスカウト特別委員会及び21世紀委員会委員長、宗教関係者代表者会議及び完全学校5日制検討会議、活性化委員会ワーキング委員長を歴任。（2001年退任）
・ 1979年、アジア太平洋地域トレーニングセミナー（フィリピン）日本主席代表、アジア太平洋地域会議（香港）主席代表、トップサミット主席代表（オーストラリア）、世界スカウト会議（南アフリカ）主席代表。
・ 1995年、総コミッショナーに就任。常務理事を兼任し、現在理事。
・ 1982年、第8回及び第9回日本ジャンボリーにて「皇太子殿下特別接伴隊長」を拝命。

他 団 体 ・ 1999年及び2001年、日独青少年指導者セミナー（ドイツ）派遣団
団長を歴任。

・ 2001年、子どもゆめ基金創設記念の「ジュニアサイエンスクルーズ」
スカイグループ団長（300名）を歴任。

・ 2002年、日韓青少年指導者定期協議会日本主席代表（団長）、並びに
日中青少年指導者定期交流派遣団団長を歴任。

表 彰 ・ 1991年、青少年健全育成功労者として「東京都知事表彰」を受章。

・ 1995年、インドスカウト連盟最高功労章「シルバーエレファント章」
を受章。

・ 1999年、社会教育法施行50周年記念社会教育功労者として「文部大
臣表彰」を受章。

・ 2002年4月、「藍綬褒章」を受章。

現 在 の 役 職

- ・ 日本ボーイスカウト東京連盟港第1団副団委員長
- ・ ボーイスカウト東京連盟参与
- ・ 財団法人ボーイスカウト日本連盟理事
- ・ 社団法人中央青少年団体連絡協議会副会長
- ・ 社団法人青少年育成国民会議副会長
- ・ 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター運営委員
- ・ 少年少女自然体験事業（こどもゆめ基金）企画委員
- ・ 次代を担う青少年について考える有識者会議委員
- ・ 財団法人世界青少年交流協会評議員



谷間のキャンプ

尾崎忠次 作詞
William S.Pitts 作曲

Moderato giojante

B^b

1. もりのふかくたにあいす
2. そよぐあおぼすずしくこた
3. きょうもあおくふけゆくた

F **F7** **B^b** **E^b**

ばらしいキャンプこんなよいところ
とりもうたうよすいじのけむりゆ
にまのほしぞらキャンプのたきびあ

B^b **F7** **B^b**

はないたにまのしろいキャンプ }
らゆらぼくらのあさのしごと } Camp—
かあかみんなのかおをてらす }

B^b **F**

キャンプにゆこうよた

camp camp camp camp Camp camp camp camp Camp camp camp camp

F7 **B^b** **E^b**

にまのキャンプに

Camp camp camp camp Camp camp camp こんなよいところ

B^b **F7** **B^b**

はないたにまのしろいキャンプ

この道を行く

島田芳文 作詞
浅香心治 作曲

堂々と余韻をもって



1. このみちはと おく て は る かな みー
2. このみちはつ らく て け わ しい みー
3. このみちはい つ か は は な さく みー

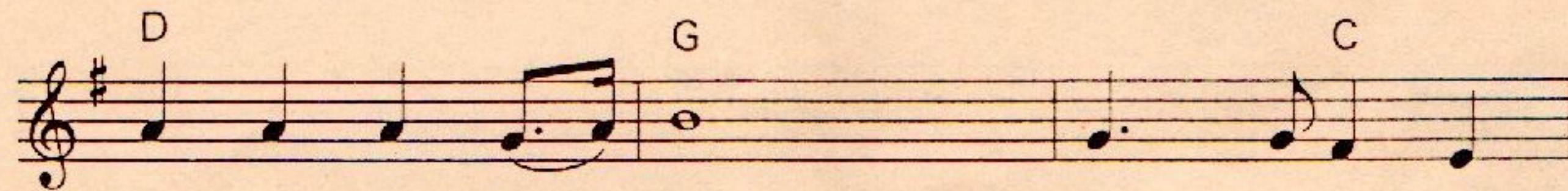


ち だ け ど ー わ た し は す
ち だ け ど ー わ た し は す
ち だ か ら ー わ た し は す

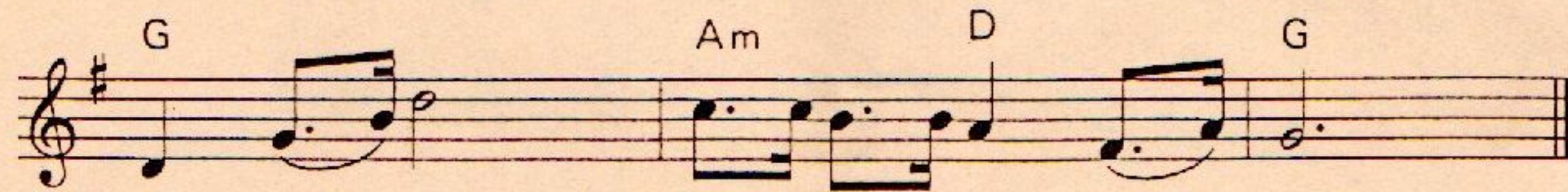
ち だ け ど わ た し は す
ち だ け ど わ た し は す
ち だ か ら わ た し は す



き ー ん ん ん わ た し が え ら ん だ
き ー ん ん ん た か ね に つ な が る
き ー ん ん ん み ら い に ひ ら け る



み ち だ か ー ら た だ ひ と
み ち だ か ー ら が ん ば り
み ち だ か ー ら た だ ひ た



す じ ー に こ の み ち を い ー く
な が ー ら こ の み ち を い ー く
す ら ー に こ の み ち を い ー く

ボーイスカウト東京第四団々歌

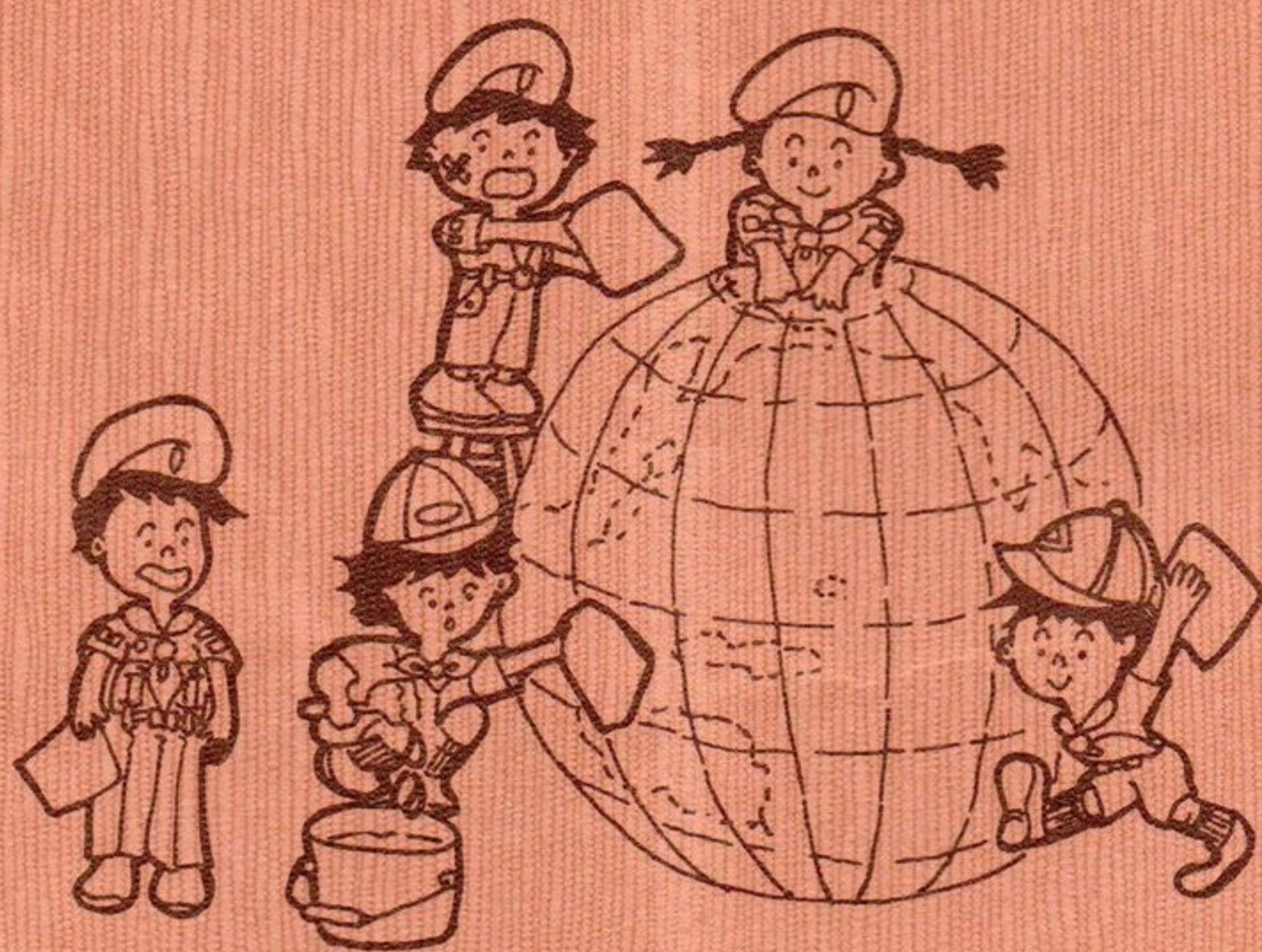
(創立十周年を迎える第四団に捧げる)

志水 功 作詞・作曲

The musical score is written for Tenor I and II (Ten. I, II) and Bass I and II (Bas. I, II). It consists of four systems of music. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is common time (C). The score includes various chords such as G, G7, C, G, C, G, A7, D7, G, D7, G, Em, C, B7, C, D7, G, D7, G. There are some red markings in the second system, including a red 'D7' and a red 'P'.

一、
 神と国とに誠を尽し
 おきてを守り人を助ける
 ぼくたちスカウトの
 小さな愛のわさが
 この世に平和をもたらすのだ
 歴史輝く霊南坂に
 そびえ立つ鐘楼
 仰いで進もう

二、
 体をきたえ心をみがき
 徳を養いつねにそなえる
 ぼくたちスカウトの
 日ごろ励むわさが
 この世に光をかかげるのだ
 歴史輝く霊南坂に
 そびえ立つ鐘楼
 仰いで進もう



SCOUTING THE WORLD

1947年に結成された東京第4隊のスカウトには15名ほどの子供達
がいましたが、その中に最も年長の5人の少年がいました。
その一人は1998年に藍綬褒章を受章した今田富士雄さん、
靈南坂教会小崎牧師の子息で、現在靈南坂スカウトクラブの会長の
小崎忠雄さん、今はニューヨークに在住する荒垣常英さん、
山梨大学教授で若くして他界され、後に正四位勲3等瑞宝章に叙さ
れた、飯田貞雄さん、
そしてこの歌の作詞、作曲者であり、初代カブスカウト隊長をつと
めた志水 功さんです。ちなみに、志水さんの後を継いでカブ隊の
隊長となったのが、今日の栄えある受章者 杉原 正さんでした。

獣医として北海道に渡った志水さんは、1957年「創立10周年を迎え
る第4隊にささげる歌」として、この歌をつくりました。

靈南坂教会はかつてアークヒルズが開発される前は、丁度現在噴水
があるあたりにあり、煉瓦の壁と尖塔をもつ鐘楼のある、美しい建
物でした。我々ボーイスカウトの部屋はその鐘楼の中にあり、毎週土
曜日には螺旋階段を上って集会にでたものです。

志水さんはその情景を忘れられずこの歌を作ったに違いありませ
ん。 私たちはこの歌が好きで以来いろいろな場で愛唱され、
団委員会において「東京第4団団歌」に制定されました。

神と国とに誠をつくし 掟を守り人を助ける

僕達スカウトの小さな愛の技が この世に平和をもたらすのだ
歴史輝く靈南坂に そびえたつ鐘楼 仰いで進もう

体をきたえ心を磨き 徳を養い常に備える

僕達スカウトの日頃はげむ技が この世に光をかかげるのだ
歴史輝く靈南坂に そびえたつ鐘楼 仰いで進もう



祝 藍綬褒章受章 杉原 正 さんの受章を祝う会

2002年6月29日/東京全日空ホテル



参 会 者 名 簿

6月22日までにご連絡を頂きました方々のお名前を記載いたしました。その後の到着分につきましては、誠に恐縮とは存じますが、記載することができませんでした。ご容赦願います。また、記載にあたり、敬称を省略させていただきます失礼をお許してください。

《 来 賓 》

財団法人ボーイスカウト日本連盟理事長/学校法人国際基督教大学理事長	佐波 正一
社団法人中央青少年団体連絡協議会会長	松本 零士
社団法人青少年育成国民会議会長	西原 春夫
独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター理事長	高 為重
プルデンシャル生命保険株式会社執行役員常務	椎名 政一

《 青少年団体・諸団体・諸機関 》

秋葉 倫子 (日本宇宙少年団)	荒川 洋輔 (世界青少年交流協会)
* 宇田川光雄 (全国子ども会連合会)	大塚多恵子 (東京母の会連合会/霊南坂)
尾平佳津江 (ガールスカウト日本連盟)	小川 俊一 (日本都市青年会議)
大屋 秀男 (ハーモニーセンター)	加藤 利雄 (青少年育成国民会議)
鎌田あつ子 (全国子ども会連合会)	* 清田 一夫 (中央青少年団体連絡協議会)
久世 郁夫 (修養団/SYD青年部)	小久保茂昭 (日本青少年ペンフレンドクラブ協会)
坂田 震一 (日本YMCA同盟)	西郷 尚子 (ガールスカウト日本連盟/霊南坂)
佐藤 忠良 (日本青年協会)	鈴木 弘喜 (世界青少年交流協会)
永井かよ子 (ガールスカウト日本連盟)	中尾巳代子 (BBS連盟)
長井せつ子 (ガールスカウト日本連盟)	西田 徹 (国際青少年育成振興財団/日本連盟)
沼田 光隆 (中央青少年団体連絡協議会)	蓮見 清 (東京YWCA)
早水 研 (日本ユニセフ協会/ICU)	松下 俱子 (国立少年自然の家/霊南坂)
松山 正恵 (ガールスカウト日本連盟)	松本 泰子 (ガールスカウト日本連盟)
松崎 修明 (日体スワロー)	湊 明弘 (青少年育成国民会議)
茂呂 雅之 (BBS連盟)	* 山岸二三夫 (日本体育協会日本スポーツ少年団)
山下 典子 (野村生涯教育センター)	吉田 大郎 (日本キャンプ協会)
与謝野 馨 (前衆議院議員/霊南坂)	

*印は「杉原正さんの受章を祝う会」発起人を示します

《ボーイスカウト東京連盟》

青木 勝彦	青木 幸子	青柳 茂	新井 道雄	荒井 俊雄
有野 廣	浅野麻利子	井上 保	井上久美子	井上 成美
伊藤 和美	今津 道子	飯田 勇	入江 生夫	岩崎 健三
岩田 照男	池田 太郎	猪山 吉徳	大塚 亜夫	大久保哲二郎
岡田 敏宏	岡本 稔枝	岡村 實	長田 光夫	粕谷 信夫
亀井 重幸	鬼平 素子	木村 公一	北爪太圭司	* 小町 國市
幸田 雅夫	小林 徹	小林 陸男	* 小林孝之助	小林久美子
小林 久憲	小暮 幹雄	腰原眞知子	斎藤 弘一	斎藤 達郎
酒井 正浩	眞山 明夫	澤田 仁良	島崎 龍夫	* 清水 孝郎
須崎 皐	鈴木 高	鈴木 守	関内 喜八	関口 眞流
田板千代三	田尻 紀夫	田中 幸男	田中 和男	田口 榮三
田辺隆一郎	田辺健一郎	竹田 誠二	高輪 眞澄	津守 勝男
寺尾 昭臣	富岡 賢一	長澤 正	中村 達二	野崎 成人
花淵 修一	春田 知男	原田 正吾	廣瀬 文一	廣田 忠三
平方 敏道	檜山由美子	深海和太郎	深津 信義	深野 賢三
深野 幸江	* 福嶋 正巳	布施 徳	堀 秀之	堀江 建治
堀江 則博	星 竹一	本田 尚士	* 松尾貴美子	松下 健
丸山嘉一郎	三宅 治光	水元 鋭二	宮崎 弘	* 室橋幸三郎
森谷 治男	守安 信介	山口 英一	山内 直元	湯川 太郎
吉田 謙	横山寿美夫	米山 毅	渡邊 一雄	渡辺 信廣
若月 誠				

《靈南坂教会・港第1団》

有馬健太郎	安西 松江	安西 武彦	栗津 勲	池田 昭子
石井 豊子	石井 道子	飯田 誠子	井上 毅	今田富士雄
今井 栄	今井 哲哉	五十野和男	臼井 純一	宇田川トシ子
* 浦野須磨子	岡田 茂	大岩 久	* 大槻敬太郎	大内 真人
川崎 豊	川 正興	金森 勝芳	河合 潤子	片岡 孝
加藤 理夫	北原 陽介	菊池 揖子	* 日下部英一	倉持 雅人
栗山 俊幸	小崎 公平	小崎 忠雄	小松 正夫	小宮 忠紀
小峰 力ノ	* 西郷 崇子	澤井 義夫	斎藤 忠雄	斎藤 芳子
城所 芳徳	清水 康輝	清水 裕	篠沢 明	渋谷千枝子
進藤 典子	杉原 直明	杉原 富靖	杉原 孝江	鈴木 隆一

(次ページへ続く)

《 国際基督教大学(ICU)・私立大学・友人 》

* 青木 實 (ICU)	岩田 みよ (ICU)	池ノ内健司 (ICU)
石井 孝夫 (ICU)	石田 昭男 (日本私立大学連盟)	伊藤 信博 (日本私立大学連盟)
大福 由信 (ICU)	加美山 節 (ICU)	川口 昌巳 (青山学院大学)
川上 功 (青山学院大学)	國松 重雄 (拓殖大学)	斎藤 義正 (青山学院大学)
澤田 錦吾 (ICU)	白澤 深山 (ICU)	鶴田 昭彦 (青山学院大学)
中村美保子 (立教女学院)	中富 穎隆 (中富商事)	長谷 豊 (立教女学院)
長谷 孝子 (立教女学院)	長谷川暢彦 (日本女子大学)	早水 研 (ICU)
藤原 尚子 (ICU)	藤沼 貞弘 (慶応大学)	星野 満 (亜細亜大学)
宗像 雅輔 (ICU)	矢野 行男 (青山学院大学)	山田 英雄 (ICU)
山本 尅生 (ICU)	蓬田 清吉 (ICU)	



《 ボーイスカウト日本連盟 》

* 阿部 道生 (福岡)	阿部 猛 (沖縄)	阿波根直孝 (沖縄)	荒尾 雅也 (東京)
雨宮 文範 (埼玉)	石田 菊美 (愛知)	石黒 武雄 (東京)	伊藤 栄三 (神奈川)
犬飼 康元 (長野)	今井田津子 (神奈川)	上道小太郎 (大阪)*	上島真一郎 (東京)
岡本 耕治 (岡山)	於保 信義 (広島)	大石 千秋 (東京)	大石 千景 (東京)
河合 孝俊 (京都)	河合 和子 (京都)	河合 武夫 (神奈川)	柿澤 安守 (静岡)
金井 昭二 (東京)	北岡 隆 (茨城)	久野 桂 (東京)*	小林 力 (東京)
近藤 愨 (愛知)	郷家 智道 (宮城)	篠田 常生 (京都)	新藤 信夫 (群馬)
嶋田 士郎 (和歌山)	島藤 宏子 (千葉)	白鳥 茂 (神奈川)	杉山 博通 (静岡)
鈴木 武道 (神奈川)	鈴木 国夫 (千葉)	仙澤 龍太 (東京)	竹宮 帝次 (神奈川)
高井 英行 (埼玉)	高野 新平 (神奈川)	武井 正光 (神奈川)	武井 重利 (神奈川)
田中 恒治 (長野)	谷口 修 (大阪)	津久井一茂 (茨城)	寺尾 淑栄 (富山)
永田 慶子 (岡山)	中根 義之 (埼玉)	中野 晃 (愛媛)	仲嶺 眞情 (沖縄)
永井 淳 (愛知)	西村 稔 (石川)	西村 哲夫 (神奈川)	額谷 征幸 (東京)
根本 孝英 (千葉)	広谷 信子 (千葉)	平出 政一 (長野)	福場 賢 (東京)
福本 匡純 (東京)	松田 成之 (神奈川)	三浦 勉 (茨城)	水野 胖 (山梨)
村瀬 達明 (大阪)	村上 智真 (山口)	山田 幸継 (埼玉)	山田 隆士 (茨城)
山田 龍雄 (千葉)	吉田 宏 (東京)	吉田 静子 (東京)	吉木 昭弘 (福岡)
興古田力男 (沖縄)	和田 勝久 (山梨)	和田 京子 (山梨)	渡辺 好子 (山梨)

(前ページよりの続き)

高玉 大	高嶋 横子	高橋 準一	田中 新二	谷本 祐子
筒井和一郎	塚田 洋子	* 遠山 兼宏	戸田健次郎	友常 明子
内藤智恵子	中島 文子	永橋 牧子	西木久美子	針替富美子
古矢 紘一	古矢 久代	藤井 朋子	増山 孝子	毛受 寛貴
百塚 健一	百塚笑恵子	柳 健一	鷲崎 文彦	* 渡辺 澄

《 親 族 》

前田 正治・和子、 杉原 明子、 杉原アヤミ、 渡辺 安子、 安藤 仁
小野寺妙子、 富岡 信吾、 荻原 健一・和子、 荻原 康二・道子・英恵
荻原 博・礼子、 小塚 一昭・千代子・美紗・亜紀、 前田 雄史・愛・凜之介

《 会 費 ・ 記 念 品 参 加 》

〈 来 費 〉 橋本 綱夫

〈 青 少 年 団 体 〉 小峰 光 彦坂ひさ枝

〈 ICU・私立大学〉 網屋美津子 小山田性次 榎藤 延子 小泉ナヲ子
福田美智子 山代 昌希 横田 洋三・淳子

〈 日 本 連 盟 〉 今城 英一 (愛 媛) 太田 晃 (岐 阜) 木村 太郎 (京 都)
古我 末男 (滋 賀) 武内 大典 (兵 庫) 高橋 佳子 (北 海 道)
武井 宏 (埼 玉) 野村 正直 (愛 知) 野田 美路 (東 京)
林 順敬・悦子 (愛 知) 日幡 行雄 (岡 山) 福田 雅之 (大 阪)
前田 紀・啓子 (山 梨) 安井 孝夫 (兵 庫) 吉岡美恵子 (愛 媛)
若園 輝夫 (岐 阜)

〈 東 京 連 盟 〉 今井 香 (故 人) 磯貝 昌隆 出光 昭 上田 柵
岡本 圭示 堅山 佳器 瀬戸島悦夫

〈 霊南坂・港第1団〉 柁川とし子・康彦 志水 功 中村 秀美 西川 安子
御堀 英子・直嗣 矢澤 宏子 柳下 泰児 川田 仁子

